

すべての子どもたちに分かる喜びを！

～ダブルリミテッドの子どもたちを減らしたい～

—『特定非営利活動法人 にわたりの会』—

愛知県小牧市を拠点に活動している「にわたりの会」は、外国につながる子どもたち⁽¹⁾の学習教材・カリキュラムを独自開発し、普及活動に努めている。会の代表であり、小学校教諭の丹羽典子さんにお話をうかがった。

外国につながる子どもたちの現状

公立の小・中・高等学校、中等教育学校及び特別支援学校に在籍する日本語指導が必要な外国籍児童生徒は全国に27,013人。また、日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒⁽²⁾も6,171人いる。中でも愛知県の外国籍児童生徒は全国で最も多く5,878人、全体の21.7%を占めている。(平成24年度日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査より)

こうした外国につながる子どもたちは、学齢期に生活する国を移動することも多く、ある日突然、今までとは違う言語で授業を受けることになる。たとえ友達と日本語でおしゃべりができても、教科学習に必要な日本語、漢字の習得に苦勞し、授業についていけない子どもも多い。また、家庭と学校で使う言語が異なることで、母語、日本語ともに伸び悩むことがある。そのままの状態が続けば、母語、日本語ともに未発達な状態、いわゆる「ダブルリミテッド」に陥ってしまう。親の母語が理解できないことで、子どもたちが自分のルーツに自信を持てなくなったり、親子のコミュニケーションが希薄になってしまうこともある。

丹羽さんと外国人児童との初めての出会いは1992年。本が好きで、学習能力も高い子どもだったが、

日本語力と経済力が原因で進学をあきらめた。それから16年後、再び縁あって外国人児童の担当となり、他県から転校してきた小学校5年生のフィリピン人の子どもと出会う。学校に行っていたはずなのに、小学校1年生の漢字も書けなかった。彼女もまた知的能力は高いのに、日本語力が原因で伸び悩んでいた。「なんとかして高校まで進ませたい」という思いを強めた丹羽さんは、この問題に正面から取り組むことになった。これまで30年間自分が取り組んできた国語教育の技法が役立つのではないかと、教材の開発を始めた。

使いやすい、効果的な教材を作りたい

2010年8月には、『大好き 日本語 フィリピン語』、『大好き 日本語 中国語』が完成。母語を大切にしたいという思いから日本語と母語を併記した。使った人からは「ドリルもあったらいい」、「カードタイプのほうが使いやすいかもしれない」などの感想がでた。「じゃあ、次は絵のついた漢字カードにしよう!音が出るものがない」と考えていた時、特別支援教育の雑誌で音の出るペンを見つけた。すぐに製造元に相談すると、幸いにも担当者は日本語教育の経験があり、教材の重要性をよく理解してもらい、協力を得ることができた。そして2011年に「にわとり式漢字カード・ドリルセット」が完成した。

漢字カードを専用のペンでなぞると、日本語のほか英語、ポルトガル語など6ヶ国語の音声が出るのが特徴だ。母語も十分に話せない子どもも増えているため、母語も同時に学べる仕掛けになっている。日本に来たばかりの子も、日本語の例文は読めなくても、母語の音声を聞けば意味は分かる。分かることで自信を持ち、意欲的に学習に取り組むようになる。ひらがなとカタカナの読み書きしかできなかった少女が、毎日10枚ずつ漢字カードで学習したところ、5ヶ月間で小学校1、2年配当漢字(256文字)を習得できたという実例もある。

例文にも工夫がある。1つの漢字に対し例文は1つ、



その例文には漢字の音・訓両方の読み方が入っている。楽しい挿絵も入っているので、カルタ取りなどのゲーム形式で楽しみながら学習することができる。外国につながる子どもたちだけではなく、うまく漢字を覚えることができずに困っている日本人の子どもも多い。漢字カードには、漢字の習得に困難を感じている子どもたちに楽しく学んでほしいという丹羽さんの思いが詰まっている。

また、アルファベットに親しんでいる子どもたちにとって、漢字の形を書くことは容易ではないが、漢字カードの順番に沿ったなぞり書きドリルで、画数の少ない漢字から練習できるようになっている。だんだんと画数をふやすことで、画数の多い漢字に抵抗がなくなる。この順番にも、国語が専門の丹羽さんの知識と経験が生かされている。

広がる「にわとり」の輪

こうした取り組みが評価され、2012年には、社会的な課題の解決に取り組む革新的な事業に対して、資金提供とパートナーによる支援を行う「ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京」の協働先に認定された。それにより愛知県内だけではなく関東方面にもつながりができた。

2014年には「愛知県内のボランティアの日本語教室にもっと漢字カードを使ってもらおう!」ということで、「あいちコミュニティ財団」の「ミエルカ」⁽³⁾に応募。そこで得た寄付をもとに、日本語教室に半年間無償で漢字カードを貸し出すというプログラムを実施している。これまでも複数の団体から教材が欲しいという声があったが、1セット約3万円する教材を購入できる団体は少ない。そこで、貸出という

方法で普及していくことを狙っている。現在60~70団体(愛知県外も1割くらい)に漢字カードを配布したが、愛知県内だけでも120以上の日本語教室があり、まだ普及には至っていない。しかし、確実に知名度は上がってきている。

そして、「ただ教材を渡すだけでは、十分に生かしてもらえないかも」という声を受け、にわとり式漢字検定も始まった。学習の進み具合を確認できるだけでなく、子どもたちは合格する喜びや達成感を感じること、さらに次に進む意欲が湧いてくる。

現在、にわたりの会では、漢字カードの制作(例文の翻訳作業、そのチェック、例文を読み上げて、音声ファイルにする作業、イラスト作成)や発送、webページの管理など、さまざまな場面でボランティアが活躍している。そのカードの先には日本語教室などで活動するボランティアがいる。子どもたちが本来持っている力を発揮できるようにサポートしたいという多くの人の思いが集まり、教材はより効果的で、使いやすいものへと進化してきた。日本語教室への漢字カードの貸出という今回の取り組みが、ダブルリミテッドの子どもを生まない社会への第一歩となることを願っている。

Information

特定非営利活動法人 にわたりの会
〒485-0037 小牧市小針1-201
E-mail : info@niwatoris.org
URL : http://www.niwatoris.org/

10月1日(水)~10月31日(金)にわとり式漢字カードモニター後期募集中です!まずはメールをください。詳細をご連絡します。漢字カード制作ボランティア募集中です!条件は、インデザインが使い、小牧まで来られる方です。お気軽にお問い合わせください。

イベントで実際に漢字カードを試してみませんか?
・10月25日(土)、26日(日)ワールド・コラボ・フェスタ
場所:オアシス21 銀河の広場
・11月7日(金)18:00~ 第2回 にわとり式漢字検定説明会
場所:愛知県国際交流協会・団体交流室



1 外国につながる子ども...国籍に関わらず、外国にルーツを持つ子どもたち。

2 日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒...帰国児童生徒のほか日本国籍を含む重国籍の場合や、保護者の国際結婚により家庭内で使う言語が日本語以外の場合などが考えられる。

3ミエルカ...プログラムに参加する市民公益活動団体と「あいちコミュニティ財団」が一緒になって寄付を集める「志金」調達サポートプログラムのこと。